

# 製品安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	OXIDER 置き型・携帯用(顆粒剤)	
会社名	株式会社 CLO2 Lab	
住所	兵庫県西宮市松生町 11-18-1F	
担当部門	研究開発本部	
電話番号	0798-56-9623	作成: 2018年8月21日
FAX番号	0798-56-9633	改訂: 2021年4月28日

## 2. 危険有害性の要約

### 【GHS 分類】

#### 物理化学的危険性

- 火薬類: 分類対象外
- 可燃性ガス: 分類対象外
- 可燃性・引火性エアゾール: 分類対象外
- 酸化性ガス: 分類対象外 高圧ガス: 分類対象外
- 引火性液体: 分類対象外
- 可燃性固体: 分類できない
- 自己反応性化学品: 分類できない
- 自然発火性液体: 分類対象外
- 自然発火性固体: 区分外
- 自己発熱性化学品: 区分外
- 水反応可燃性化学品: 区分外
- 酸化性液体: 分類対象外
- 酸化性固体: 区分外
- 有機過氧化物: 区分外
- 金属腐食性物質: 分類できない

#### 健康に対する有害性

- 急性毒性(経口): 区分外
- 急性毒性(経皮): 分類できない
- 急性毒性(吸入: ガス): 分類対象外
- 急性毒性(吸入: 蒸気): 分類対象外
- 急性毒性(吸入: 粉じん): 分類できない
- 急性毒性(吸入: ミスト): 分類対象外
- 皮膚腐食性・刺激性: 分類できない
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 分類できない
- 呼吸器感作性: 分類できない
- 皮膚感作性: 分類できない
- 生殖細胞変異原性: 分類できない

発がん性:分類できない  
生殖毒性:分類できない  
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露):分類できない  
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露):分類できない  
誤えん有害性:分類できない

#### 環境に対する有害性

水生環境急性有害性 短期(急性):分類できない  
水生環境慢性有害性 長期(慢性):分類できない  
オゾン層への有害性:分類できない

#### 【GHS ラベル要素】

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起用能	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし

#### 3.組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学特性	高分子
化学名	アクリル酸重合体部分ナトリウム塩架橋物
CAS 番号	9003-04-7
濃度又は濃度範囲	非開示
官報公示整理番号(化審法)	(6)-901

#### 4.応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	水で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 必要に応じて医師の手当、診断を受けること。
飲み込んだ場合	必要に応じて直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入:咳、咽頭痛 皮膚:発赤、痛み 眼:発赤、痛み 経口摂取:腹痛、嘔吐
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項	必要に応じて安静と症状の医学的な経過観察が不可欠である。

## 5.火災時の措置(周辺火災時)

消化剤	大量の水、泡消化剤、粉末消化剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	火災によって刺激性又は毒性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。 火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行なう者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用すること。

## 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は必ず適切な保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化方法及び機材	漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラム等に回収する。又は電気掃除機、ほうき等にて回収する。粉塵が飛散しないようにして取り除く。
二次災害の防止策	床に濡れた状態で放置すると滑り易くスリップの原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。

## 7.取扱いおよび保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、必要に応じて保護具(マスク、手の保護具等)を着用すること。
局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物の使用を禁止する。 可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 ミストを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照
保管	
保管条件	容器を密閉して直射日光を避け換気の良い場所で保管すること。 可燃物及び指定された禁忌物質から離して保管すること。 熱から離して保管すること。 火源の近くに保管しない。
混触危険物質:	『10. 安定性及び反応性』を参照
容器包装材料:	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8.暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
------	----------

## 許容濃度

日本産業衛生学会

設定されていない

## 設備対策

直接取扱う場所では、局所排気その他の設備対策を使用するなど、換気をよくする。

なお大量に扱う場合は、局所排気装置や全体排気装置、手洗い設備、洗眼設備を設けることが望ましい。

## 保護具

呼吸器の保護具

必要に応じて適切な呼吸器保護具(マスク等)を着用すること。

手の保護具

特になし

眼の保護具

必要に応じて適切な眼の保護具(保護めがね等)を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

特になし

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9.物理的及び化学的性質

物理的状態、形状等

粉体

臭い

データなし

密度

データなし

融点

データなし

沸点

データなし

引火点

データなし

自然発火温度

データなし

燃焼または爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

溶解性

データなし

オクタノール／水分配係数

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

## 10.安定性及び反応性

安定性

データなし

危険有害反応可能性

データなし

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

データなし

危険有害な分解性生物

データなし

## 11.有害性情報

急性毒性(経口)

>10g/kg (マウス、オス)<sup>1)</sup>

急性毒性(経皮)

データなし

急性毒性(吸入:ガス)

データなし

急性毒性(吸入:粉じん・ミスト)

データなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	データなし
呼吸器又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	陰性 <sup>2)</sup>
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性、単回曝露	データなし
特定標的臓器毒性、反復曝露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

データなし

## 13. 廃棄上の注意

汚染容器及び包装	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p>
汚染容器および包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p>

## 14. 輸送上の注意

国際規制	該当しない
国連番号	該当しない
国連包装等級	該当しない
国内規制	該当しない
特別の安全対策	<p>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。</p> <p>重量物を上積みしない。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p>

## 15. 適用法令

消防法	該当しない
労働安全衛生法	表示該当物質に該当しない、通知対象物質に該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法	該当しない

## 16.その他の情報

### 参考文献

- 1) 第7版食品添加物公定書解説書, 広川書店
- 2) 労働安全衛生法に基づく、既存化学物質の変異原性試験結果.

### 責任の限定について

本 SDS は、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。

なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保障値ではありません。

本 SDS は、一般的な取扱いを想定して記述していますので、必要に応じて、記述を修正する必要があります。